

良き人とのめぐりあいを生かし、着実に行動に移す。  
良き人の支援により、ビジネスの障壁を打ち破る。

## オーツケミカル（株） 代表取締役社長 合田 研吾

(大阪南ブロック／さかい浜支部)



オーツケミカル（株）は、1971年に合田さんの父が創業。2009年に代表取締役社長に就任。2017年、ベトナム ハナム省に現地法人（合併）設立。

### 企業プロフィール

所在地：大阪府高石市取石

事業内容：ウレタンゴムによる各種工業用品の製造販売、工業用ゴム製品、プラスチック製品の販売。

設立：1971年8月10日（創業1971年3月20日）

社員数：141名（2019年4月）

資本金：55,000,000円

### 大手タイヤメーカー研究職からオーツケミカルへ

大学院（土木工学科）を卒業し、大手タイヤメーカーB社に就職。免震ゴムの開発などに6年間従事した後、父の経営するオーツケミカル（株）へ1998年1月に入社。合田社長が入社したのは、創業以来の増収ペースが鈍ってきた時期。何か新しいことを考えていかなければならないなかで、学生時代にアメリカや東南アジアを訪問していたこともあって、興味があった海外への展開を模索していく。まず、韓国への事業展開を開始。合併会社を設立するも、販売面が伸びず業績は低迷。来期での撤退を決断せざるを得なかった。続いて、中国での販売をめざし、アリババ市場に出店。帰化日本人の社員にサイト管理を任せたとこ、これがうまくいき、今期：3,000万円、来期：5,000万円の売上が見込めている。

### ベトナム進出

次なる海外展開は、2015年12月に視察に行ったベトナム。3カ所を視察した。ハナム省の第二ドンバン第一工業団地（ベトナム国営）に良いイメージを持ち、現地工場の設立を決断。資本金＝2億円（出資比率当社51：合併相手49）にて工場建設を開始。資本はほぼ半々であるが、工場運営はオーツケミカル（株）が担当。工場施工をN建設に依頼し、輸出加工型企業（EPE）のライセンスも取得、順調に開業準備をすすめていたところ、問題が発生。

製造設備を日本工場から、K運輸に依頼（これが良かった）して輸送したのだが、設備に中古機械が含まれていることが問題となって、50日間ハイフォン港で荷物を止めら

れる事態になる。中古機械のベトナムへの搬入は現地の法制的にはNGであったものの、マル秘の鼻薬により無事（？）通関でき、ベトナム工場への設置が完了。2018年10月より稼働を開始し、3期目からは黒字化。更なる発展を見込んでいたところ、4期目はコロナ禍の影響を受け、足踏み状態となっている。

### 外国人社員の定着

「5年、働けるか？」社長が面接で問いかける最初の質問がこれ。「一生、働きます」と答えたベトナム人が、現在も勤務しつづけており、在籍は13年。日本で自動車免許も取得、住宅も購入し、定住者になっている。加工現場のリーダー的存在で、後進の指導も担っている。中国人、ベトナム人に限らず、ネパール人やインド人など、外国人を積極的に採用している。外国人社員の定着率は高く、離職者も少ない。ベトナムのハナム省（北部地域）に設立した工場の責任者も、日本で採用し、さまざまな業務内容を習得してきたベトナム人社員。

### 今後の展開（海外事業）

ベトナム国内での販売増をめざす。営業活動はベトナム人社員が担当。販売先は、在ベトナムの外資系工場。経済発展が本格化するベトナム市場はこれから伸び時だと考えている。中国販売強化。韓国再挑戦。東南アジア全域での販売増進。外国人社員でも、ルート営業（既存顧客に対する営業）ならできるはずなので、外国人社員への教育・訓練を拡充し、さまざまな業務で活躍してもらえるようにしていく。

### インタビュー後：懇談の場にて

出会いを生かし、ご縁を引き寄せてきた合田社長の魅力を、インタビュー後の懇談の際に体感しました。さまざまな人を惹きつける合田社長の人間味あふれる親しみやすい一面を見ることができました。コロナ禍収束後、ぜひ一緒にいたいと感じた次第です。筆者もまた、合田社長に引き寄せられる一人になりました。

(取材・写真 日中経済交流研究会広報委員会  
文 (株)津川製作所 津川礼至)